



この記事がすごい！ 毎日新聞今週のこだわり4本

2021年10月3日号

編集／毎日新聞社カスタマーリレーション本部

反戦訴え続ける 作家・澤地久枝さん 3日(日)=1面、3面

迫る



「反戦」をテーマに執筆活動が続けている澤地久枝さん＝写真＝は、91歳になりました。体力的に厳しくなってきましたが、毎月3日には国会前で政府に対する抗議活動が続いています。自公政権に

よって「平和」が脅かされると危機感を強めているからです。14歳の時、旧満州（現中国東北部）で敗戦を迎えました。さらに、戦争のむなしさを伝える映画を見たことで「平和」を強く意識

するようになったと打ち明けます。戦争の傷痕を巡る澤地さんの足跡に迫ります。

特集 ワイド

菅首相への最後の手紙

4日(月)＝夕刊特集ワイド



4日の臨時国会で新首相が決まると、菅義偉内閣は退陣します。菅氏が官房長官だった時、官房長官番だった記者は約1年前の2020年秋に首相に就任した菅氏に対し「あなたの国家像、いつ聞け

ますか」と問いかけました。しかし、その明確なビジョンが見えないまま、菅政権は終わりを告げました。元番記者は菅氏に向けて、最後の「手紙」を書くことにしました。



論点 「二刀流」を考える

8日(金)オピニオン面

米大リーグで投打の「二刀流」として人気を集めている大谷翔平選手は、4年目の今季大きく飛躍しましたが、渡米前は投手か打者のが、ちらかにはと専念した方が良かった。

元プロ野球選手で現在は少年野球を指導する澤克実さん、スポーツ文化の専門家、日米の文化を比較研究する学識者に、改めて「二刀流」に対する考えなどを聞きました。

首相指名、岸田政権発足

5日(火)＝1面など



自民党の岸田文雄総裁＝写真＝は、4日召集の臨時国会で第100代首相に選出され、岸田内閣が発足します。すでに決定した党役員人事では最大派閥の細田派や麻生派への配慮が目立った岸田氏が、組閣でどこまで独自色

を出すかが焦点です。内閣の布陣から見えてくる岸田氏の狙い、直面する内外の政策課題、衆院選を前に対決姿勢を強める野党の戦術など、新政権の船出をさまざまな角度から分析します。

毎日新聞



QRコードからご覧ください。

